

経営分析から見た 本市水道事業の現状と課題

第1回

津山市水道事業経営審議会

5月31日 13:30～15:30





経営分析から見た現状と課題

- 5つの経営指標を用いて津山市水道事業経営の現状と課題を把握

経常収支比率

企業債残高対給水収益比率

給水人口一人当たり企業債残高

給水原価

料金回収率



経営分析から見た現状と課題

- 5つの経営指標を用いて津山市水道事業経営の現状と課題を把握

経営指標	概要
経常収支比率 (%)	経常費用が経常収益によってどの程度賄われているかを示す。この比率が高いほど経常利益率が高いことを表し、この比率が100%未満である場合、収益（稼いだお金）で費用（支払うお金）を賄えず経常損失が生じていることを意味する。 (算定式) $\frac{\text{経常収益（営業収益＋営業外収益）}}{\text{経常費用（営業費用＋営業外費用）}} \times 100$

経常収益・・・企業の通常本来の活動によって得られる収益。
営業収益と営業外収益の合計

経常費用・・・企業の通常本来の活動によって発生する費用。
営業費用と営業外費用の合計



経営分析から見た現状と課題

- 5つの経営指標を用いて津山市水道事業経営の現状と課題を把握

経営指標	概要
企業債残高対 給水収益比率 (%)	給水収益に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す。明確な数値基準はなく、経年比較や類似団体との比較等により自団体の置かれている状況を把握・分析する。 (算定式) $\frac{\text{企業債残高}}{\text{給水収益}} \times 100$
給水人口一人当たり 企業債残高 (円/人)	企業債残高を給水人口一人あたりに換算したものであり、上記と同様企業債残高の規模を表す。 (算定式) $\frac{\text{企業債残高}}{\text{給水人口}} \times 100$



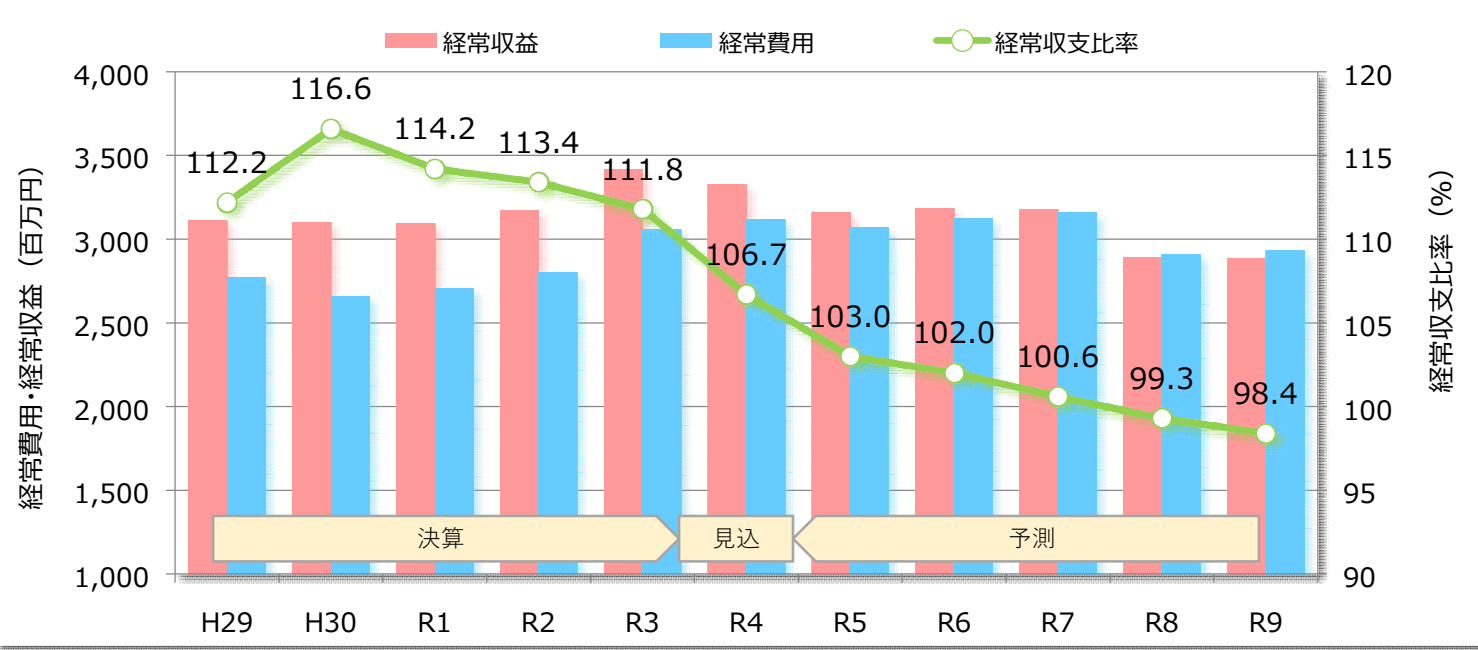
経営分析から見た現状と課題

- 5つの経営指標を用いて津山市水道事業経営の現状と課題を把握

経営指標	概要
給水原価（円/m ³ ）	有収水量 1 m³あたりについて、どれだけの費用がかかっているかを表す。 (算定式) $\frac{\text{営業費用} + \text{営業外費用} - (\text{受託工事費} + \text{長期前受金戻入})}{\text{有収水量}} \times 100$ また、有収水量1m³あたりから得られる収益を供給単価という。
料金回収率（%）	給水に係る費用が、どの程度給水収益で賄えているかを表す指標。100%を下回っている場合、水道料金収入だけでは、水道水を供給する費用のすべてを賄えていないことを意味する。 (算定式) $\frac{\text{供給単価}}{\text{給水原価}} \times 100$



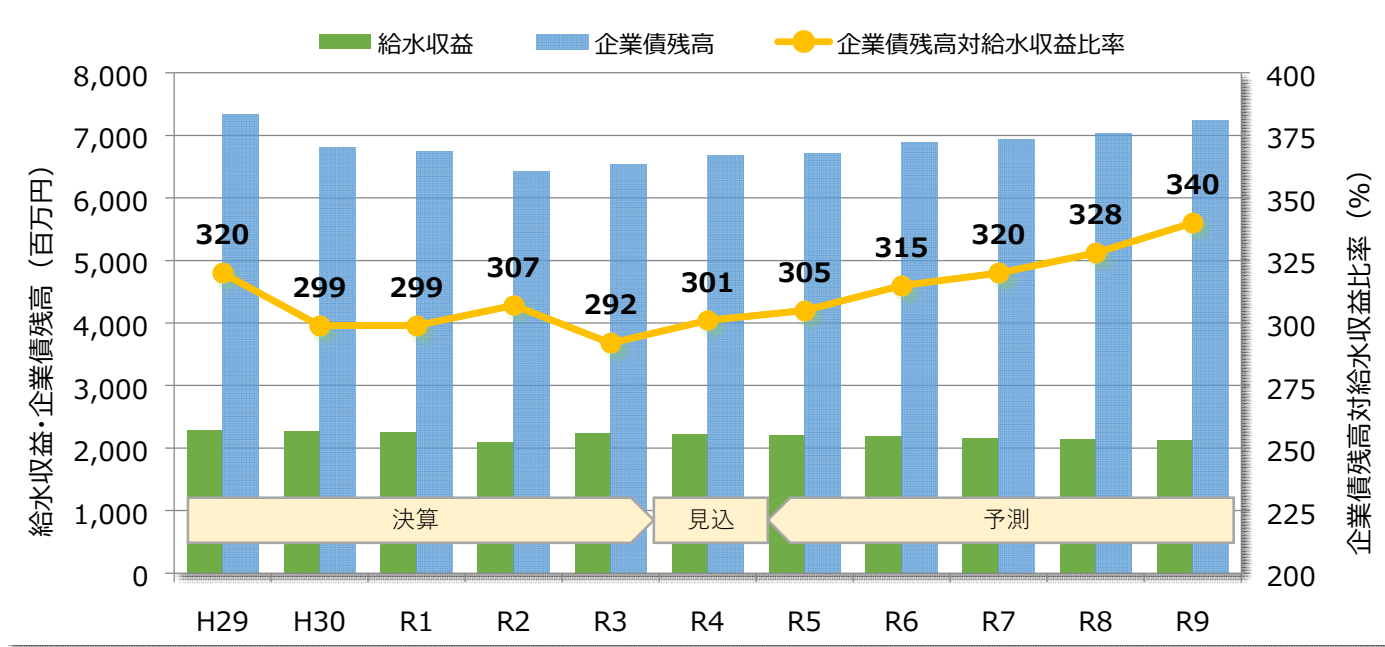
経常収支比率



- 経常収益の減少（主に人口減等に伴う給水収益の減少）と動力費の高騰などによる支出の増加に伴い、経常収支比率は令和4年度に大きく下降し、令和8年度に100%を下回る。



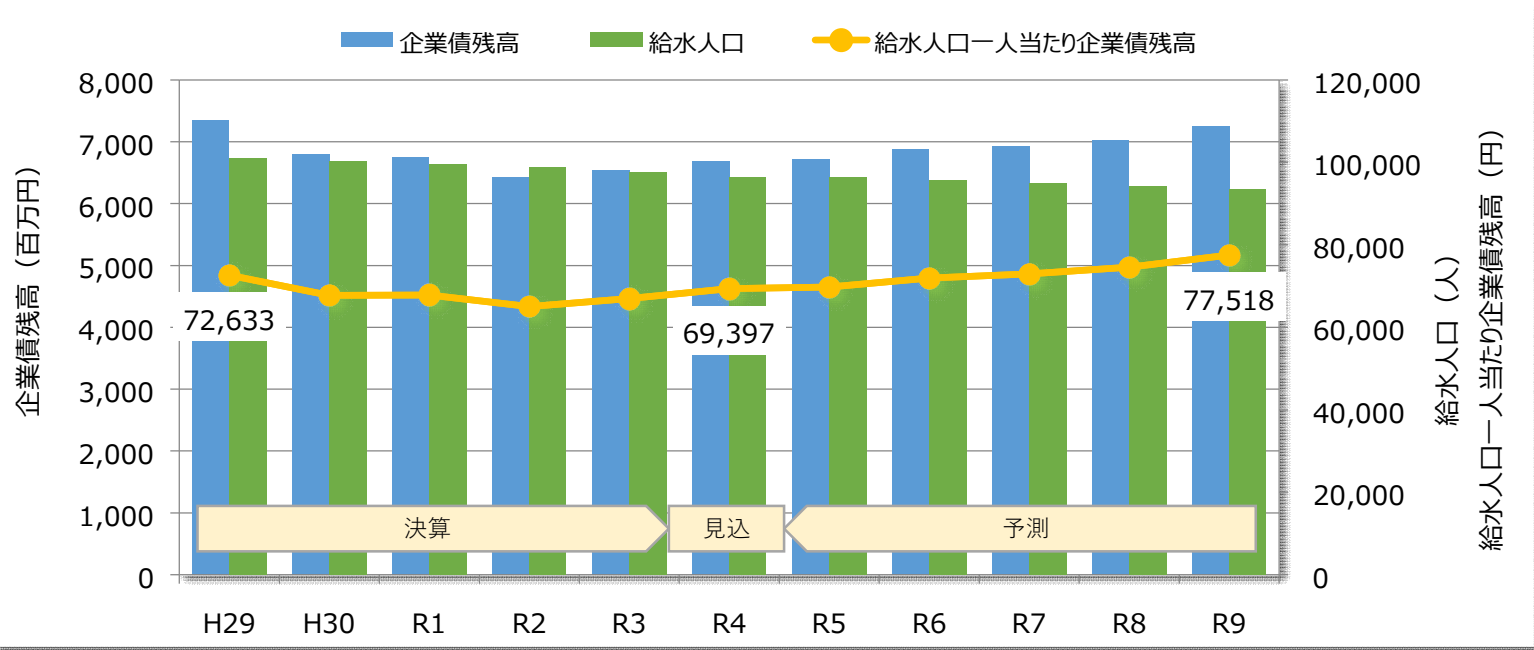
企業債残高対給水収益比率



- 給水収益の減少と企業債残高の増加に伴い、企業債残高対給水収益比率が年々増加する。（過去5か年類似団体平均値292%）



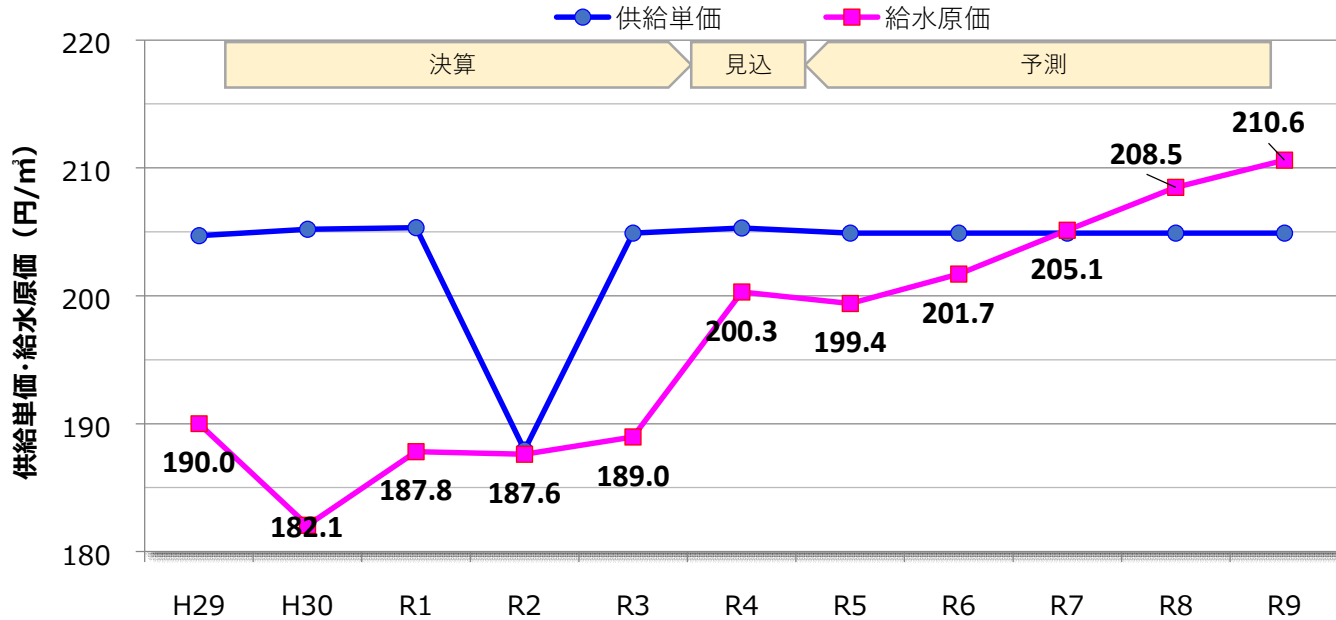
給水人口一人当たり企業債残高



- 給水人口の減少と企業債残高の増加に伴い、給水人口一人当たり企業債残高が年々増加する。



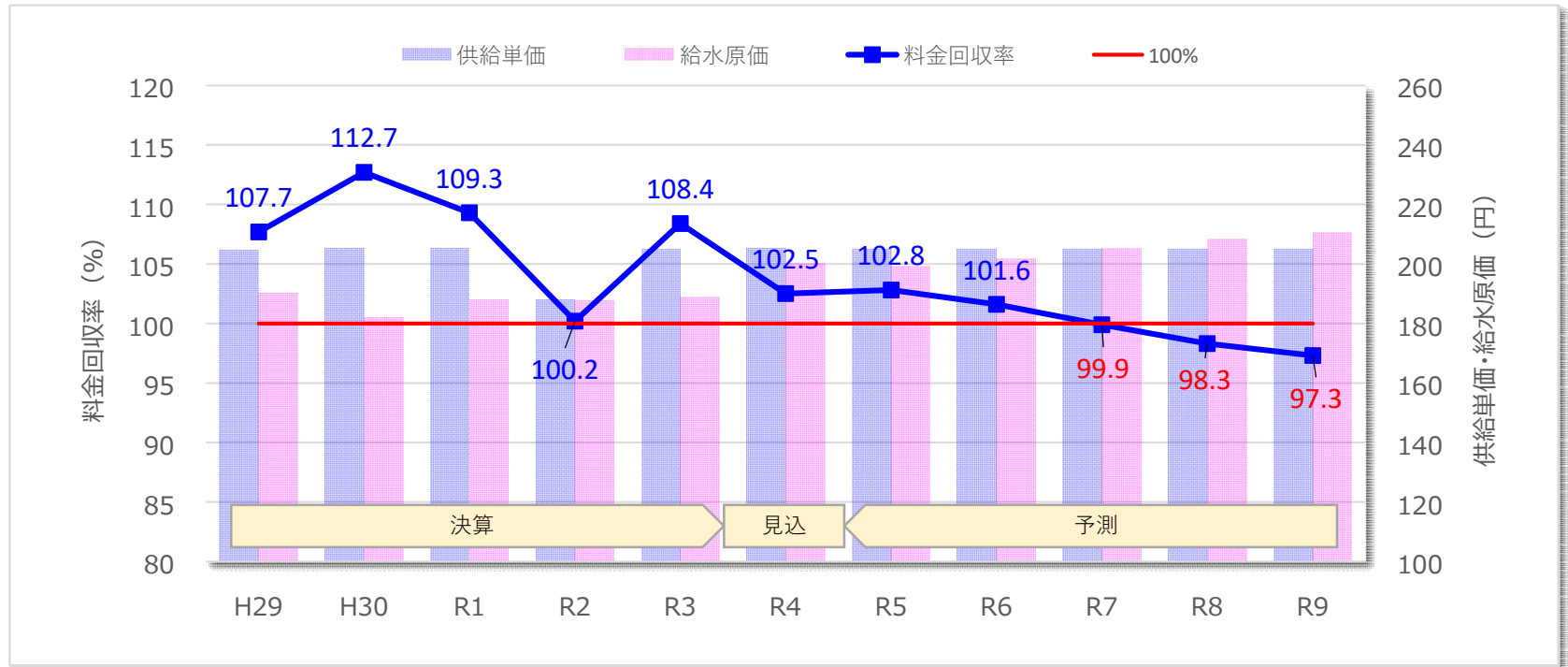
給水原価



- 費用は、施設維持管理、運転管理等、配水量の多寡に関わらない固定費が占める割合が大きい。
 - 動力費の高騰などで変動費も増加。
 - 有収水量は年々減少。
- ➡ 給水原価の上昇が続く見通し。



料金回収率

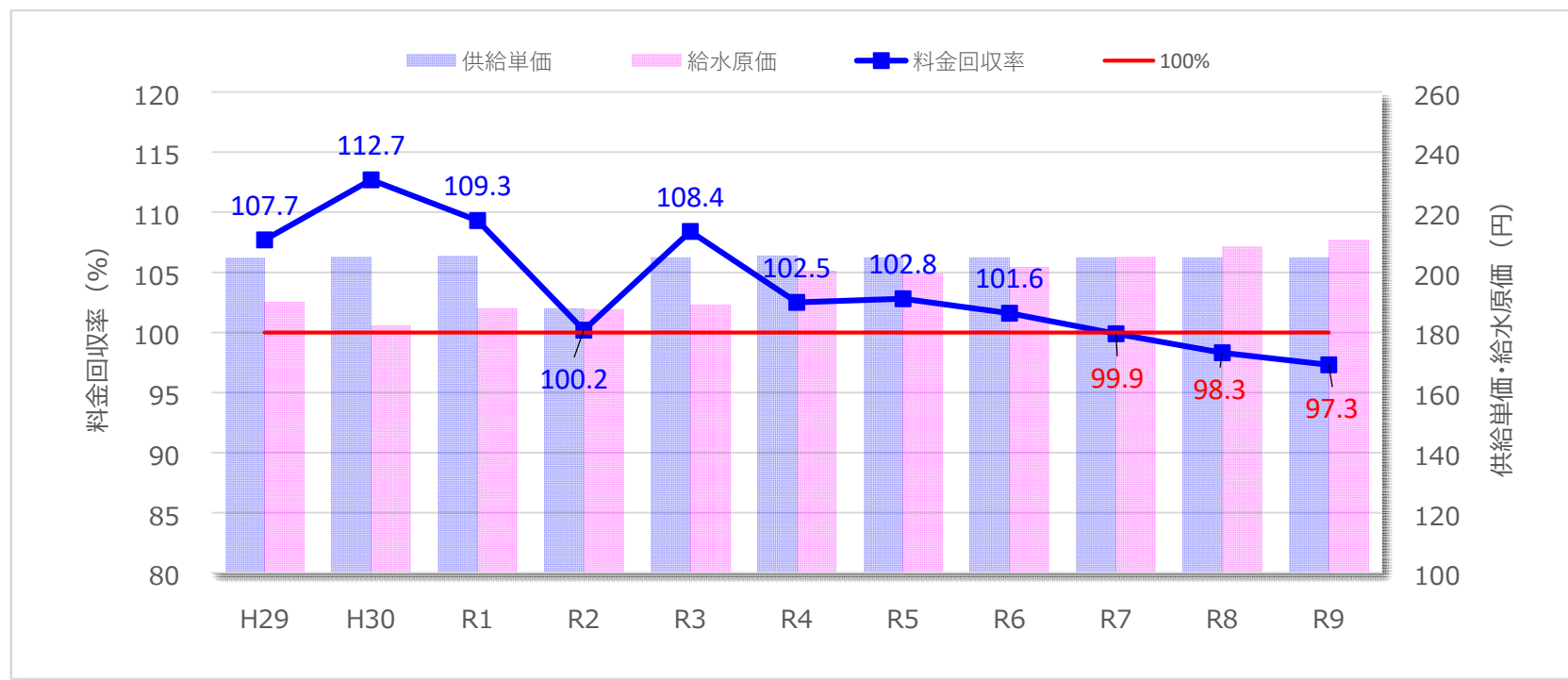


- 平成30年度以降、給水原価は徐々に上昇し、料金回収率が低下。令和7年度以降100%を下回る見込み



水道料金の適正水準の検討

■ 給水収益の確保（料金回収率の改善）



- 令和7年度以降、給水に係る費用を水道料金収入で賄うことができなくなる見込み。
➡ 水道料金の適正水準について検討する必要がある。